

【花畔・網】企画・制作による展示

ばんなぐろ・ねっと

<http://www.bannaguro.net/>

第1弾

はまなすの丘（石狩川河口砂嘴） もうひとつの楽しみ方



はまなすの丘から望む朝陽



はまなすの丘を歩いた軌跡

はまなすの丘といえば、自然に近い姿で自生している海浜植物の宝庫。イソスミレ、ハマナス、ハマボウフウなど、咲き乱れる海辺の花々を眺めながら歩くのは、はまなすの丘の楽しみ方の基本。

でもはまなすの丘の楽しみ方は決してそれだけにとどまりません。

砂嘴の先端は、石狩川の水勢と石狩湾の潮流のせめぎあいによって押しつ押しされつ揺れ動き、日々形を変えています。

また、低気圧の襲来や冬の季節風による荒波で砂丘は年々浸食を受けています。

そうしたさまを観察したり、四季折々に川と海とが織りなすさまざまな表情を掬い上げた記録と写真を展示します。

- サブテーマ**
- (1) GPSロガーをぶらさげて歩く（砂嘴先端の形状変化）
 - (2) 定点観察する（砂丘浸食の様子）
 - (3) 河口の表情をコーミングする

場所

石狩浜海浜植物保護センター

石狩市弁天町48-1 Tel: 0133-60-6107

期間

5月19日～6月20日（9:00～17:00）火曜日休館

第2弾

石狩川、橋と堰

明治の初め、長さ364kmあったといわれる石狩川は、大正期以降、蛇行部分の多くの直線化によりいまでは268kmとされています。

それでも日本で3番目の長さ。

最下流の石狩河口橋から源流の石狩沢に架かる天石橋まで、90以上の橋が架かっています。

川が流れ、その両側に人が暮らせば、交流のための橋が望まれるのはいわば必然。

橋は人間の造作物であることは確かとしても、川と人の営為とが交錯する自然に溶け込んだ風景といえます。

新たな橋、あるいは老朽化した橋の架けかえは、その地域に暮らす人々の夢の実現。

しかし同時に、橋が架けられることにより失われることどもにも注意深く目を向けていかなければいけないでしょう。



3月26日開通した美浦大橋

また、川を横断する構造物は橋だけではありません。

農業用水を取水する頭首工、発電用水を取水する堰など。

さまざまな問題を孕みつつも、数多くの治水、利水のための堰、ダムなどが構築されています。

4年かけて石狩川の橋と堰のほとんどすべてを巡ね歩き、風景として切り取ってみました。



今年で廃止される美浦渡船

場所

**石狩地区地域防災施設
（川の博物館）**

石狩市新港南1丁目 Tel: 0133-64-2507

期間

7月12日～7月31日（9:00～17:00）月・木曜日休館